



三重の

ステキな

歴史的建造物






写真はすべて、三重県内の
国・県指定歴史的建造物です。
どこにある建物かな？
解答は裏表紙にあります

三重の歴史的建造物

歴史的建造物といえば、法隆寺や姫路城のような世界的にも著名なものを思い浮かべますが、三重県にも誇るべきすばらしい建造物がたくさんあります。

歴史的建造物は、歴史的に重要というだけではありません。迫力ある建物は見る人に大きな感動を与え、華麗なそのたたずまいは見る人の心を和ませます。そして、そこに生まれ育った人にとっては、地域のシンボルとして「心の原風景」となっているのです。三重県の風土を感じさせる歴史的建造物。その一部は、国・県・市町の法律や条例によって大切に守られています。

三重の歴史的建造物を守る！ 国・県の制度と件数

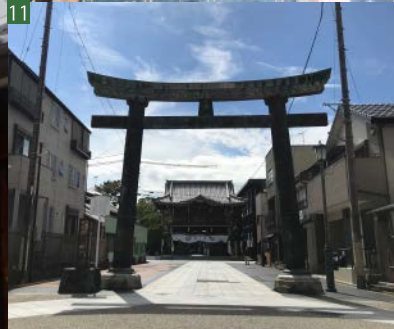
国指定	国宝・重要文化財（建造物）	25 件
国選定	重要伝統的建造物群保存地区	1 件
県指定	有形文化財（建造物）	44 件
国登録	登録有形文化財（建造物）	263 件

（令和2年1月1日現在）



国指定 重要文化財

日本の国にとって歴史的に、そして芸術的にも価値が高いものが国指定重要文化財となります。国宝は、国指定重要文化財のなかから、世界文化の見地から価値が高く、他に類を見ないものが指定されます。国指定の建造物には、寺院や神社、城郭・民家・近現代建築のほか、橋梁やダム（堰堤）なども指定されています。



歴史ある
まちなみ！



国選定 重要伝統的建造物群保存地区

その土地の歴史や風土を象徴的にあらわしている建造物群は、**伝統的建造物群保存地区**として、該当する市町村が条例で保護しています。そのうち、国にとって重要なものが**重要伝統的建造物群**として選定されています。ほかの国指定文化財とは少し異なる制度で、地域と自治体の努力によって保護される仕組みの文化財です。三重県では、関宿（亀山市）があります。

県指定 有形文化財

三重県指定有形文化財の指定基準は国指定の建造物と大きく変わりませんが、国指定建造物よりも三重県の地域色が豊かです。県内の国指定建造物には見られない、鳥居や石塔などもあり、バラエティーに富んでいます。

国登録 有形文化財

平成8年にはじまった国の登録制度は、ゆるやかな規制のもとで文化財を守る仕組みです。**登録有形文化財**（建造物）は建築後50年を経過し地域に親しまれているもの、時代の特徴を良く示しているもの、再びつくり出すことができないものなどが対象となっています。

まちづくりや
観光などに活用！

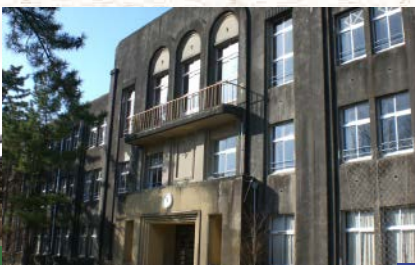
住宅	公共 建築	井戸	トン ネル
	ダム	門 堀	石垣
煙突	店舗	工場	橋



12



15



18



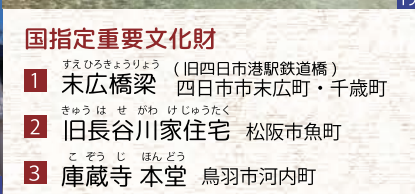
20



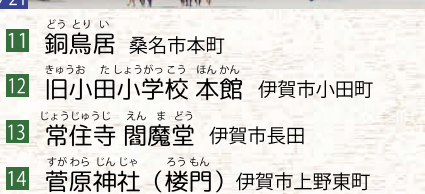
13



16



19



21



14



17

国指定重要文化財

- 1 末広橋梁 (旧四日市港駅鉄道橋) 四日市市末広町・千歳町
- 2 旧長谷川家住宅 松阪市魚町
- 3 庫蔵寺 本堂 鳥羽市河内町
- 4 大村神社 宝殿 伊賀市阿保
- 5 排聖殿 伊賀市上野丸之内
- 6 旧寶日館 (本館) 伊勢市二見町
- 7 地蔵院 (鐘楼) 亀山市関町新所

国選定重要伝統的建造物群保存地区

- 8 亀山市関宿 亀山市関町

県指定有形文化財

- 9 最明寺 本堂 熊野市二木島町
- 10 廣禅寺 輪蔵 伊賀市上野徳居町

国登録有形文化財 (建造物)

- 11 銅鳥居 桑名市本町
- 12 旧小田小学校 本館 伊賀市小田町
- 13 常住寺 閻魔堂 伊賀市長田
- 14 菅原神社 (楼門) 伊賀市上野東町
- 15 朝田寺 本堂 松阪市朝田町
- 16 大王塔灯台 志摩市大王町波切
- 17 旧舟木橋 大台町佐原〜大紀町舟木
- 18 旧鳥羽小学校校舎 鳥羽市鳥羽
- 19 朝明川砂防堰堤 三重郡菟野町千草
- 20 梅田家住宅 名張市上八町
- 21 朝日小学校円形校舎 三重郡朝日町柿



猪田神社本殿 国指定重要文化財

伊賀市猪田にある猪田神社本殿は一間社流造という形式で、建てられた時期を示すと考えられる戦国時代（大永7年・西暦1527年）の棟札が残る、三重県最古級の建造物のひとつです。

龍や神様、動植物などが彫られた彫刻が色鮮やかで、伊賀地域の特色をよくあらわしています。

屋根はヒノキの皮で葺かれた檜皮葺です。平成2年の修理で葺かれた檜皮が劣化したため、平成30年から令和元年にかけて修理が行われました。



修理後

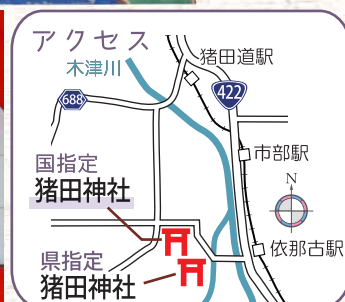


大黒さんと
恵比寿さん

布袋さん



柱に...
顔!?



同じ名前の県指定
文化財・猪田神社も
必見!



修理の状況



檜皮葺

修理前

修理中

修理後

苔や草、落ち葉が劣化の原因に。

檜皮を外し、傷んだ材を取り替えます。

葺き替え完了!

檜皮葺を拡大
してみると...



彩色

1 檜皮葺の修理とともに、社殿の一部を塗り直しました。まずは、表面の古い色を掻き落としていきます。

2 材を白く塗り、その上から顔料で着色します。



3 脇障子に彫刻されたりス。修理前は、色が褪せていました。

4 元々塗られていた模様を図に写し取り、それを元に彩色作業を進めます。



5 あざやかな色彩が蘇りました。



諸戸家住宅 国指定重要文化財

桑名市にある諸戸家住宅は、林業などの実業家である初代諸戸清六が明治18年に購入した土地に主屋（自身の住居・事務所）、広間（客室用の空間）をはじめとして次々と建物を建て、昭和初期に屋敷構えが整えられたものです。その後、戦災や台風で被害を受けますが、修理され、現代まで受け継がれてきました。

平成23年から平成34年予定で、解体・半解体修理を行っています。今回の修理では、屋敷構えが整えられた昭和初期の姿に戻しつつ、地震に強くなるよう補強します。

修理の状況

主屋

建物を宙に浮かす揚屋により修理をしています。発掘調査を行い、地盤の補強について検討します。



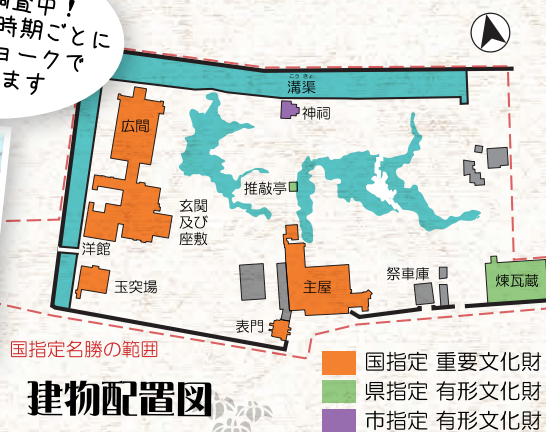
修理前



修理中

油圧ジャッキと人力で、1回につき1.5cmずつ上げていきました。1日に10～15cm建物を上げ、最終的に2mの高さまで上げました。

釘の痕跡調査中！
釘が打たれた時期ごとに
色の違うチョークで
囲っています



広間

揚屋し、発掘調査を行いました。調査によって建物が建てられた当時の基礎（石積み）がみつかったため、それを残すように新たな基礎（コンクリート製）をつくりました。内装工事も実施しました。



修理前



修理中

埋もれていた
石積みを発見！



あげや
揚屋して
基礎を工事！

洋館

塗膜調査の結果、外壁のペンキは何度か塗り替えられていることがわかりました。今回の修理では、昭和初期に塗られていた薄黄色に塗りなおしました。



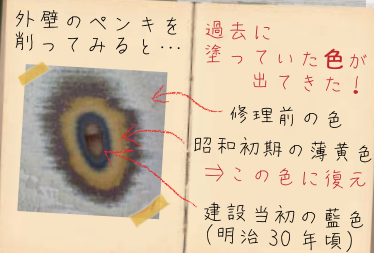
修理前



修理中



修理後



アクセス



構造補強

廊下の裏側や
押入れには...



鉄骨
補強

鉄骨

広間

屋根瓦の下...

壁のなか...



軽量化

主屋

主屋

瓦の下に置かれていた土を外す、土蔵造りの土壁を外すなどして、建物全体を軽量化しました。

床下
には...

鉄筋
補強

外から見えないように工夫しながら、鉄筋コンクリートの基礎を入れました。



洋館



春日神社拝殿 県指定有形文化財

春日神社のある伊賀市川東は、鎌倉～室町時代に「壬生野郷」と呼ばれた地域で、春日神社はその精神的な核でした。江戸時代以降もそれは変わらず、今も獅子舞や、神社関係者の結束を確かめ合う祭り（地元では「長屋講」と呼ばれる）が執り行われています。春日神社拝殿は、室町時代後期の特徴を備えた、いにしへの地域文化を今に伝える大切な「生き証人」なのです。

こちらでは、平成28年度から6か年計画で修理を行っています。

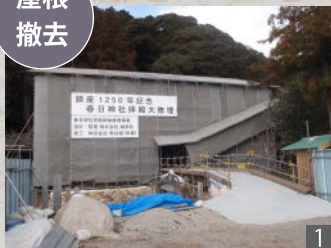
修理前のようす



1 修理前 2 3 軒先のカーブや組物に室町時代後期の特徴を備えています。

修理の状況

屋根撤去



1 拝殿を覆屋で囲み、修理開始！ 2 3 4 屋根を外すと、垂木や梁などの構造材があらわとなりました。5 柱の見えない部分に馬の落書きを発見！江戸時代の大工さんの仕業のようです。ちょっとした発見に、場が和みます。

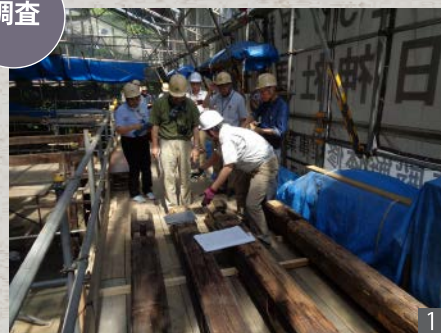
「恐竜の骨格」みたいで
かっちょええ～！！



建物解体



調査



1 解体が終わり、柱を支えていた礎石だけになりました。

礎石のひとつに、
ごりんとう ちりん
五輪塔の地輪が！



1 どの材がまだ使えるのか、どの材を取り替えるのか、慎重に調査します。
2 3 古い材からは、昔の大工さんの苦勞と歴史が感じられます。

修理はまだまだ続きます！



旧 明村役場庁舎 国登録有形文化財

きゅうめいむらやくばうしや

旧明村役場庁舎は、大正5年に河芸郡明村の役場として建設された建物で、昭和45年に芸濃町資料館となりました。和の工法による洋風建築を示す建物で、地域の役場として親しまれてきました。平成27年から同30年にかけて、修理・耐震補強工事を行いました。



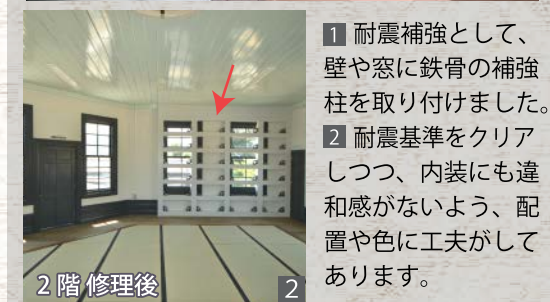
ひきや 曳家工法



建物を解体することなく別の場所へ移動することができる曳家工法を採用。先行してつくっておいたコンクリート基礎の上に、建物をスライドさせました。



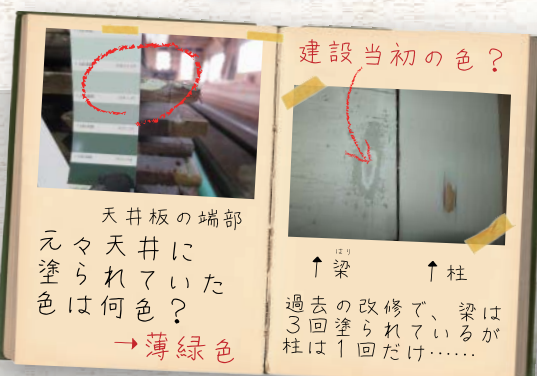
修理の状況



1 耐震補強として、壁や窓に鉄骨の補強柱を取り付けました。
2 耐震基準をクリアしつつ、内装にも違和感がないよう、配置や色に工夫がされています。

彩色調査

天井や柱につかわれていた柱の塗膜を調査し、建設当初の色に塗り直しました。



痕跡調査



1 床組を撤去すると、建設当初の床板があらわれ、畳敷きの跡がみつかりました。元々議場として使用していた当時は、畳の上にあぐらや正座で座って会議をしていたそうです。2 床板の痕跡から畳の寸法や枚数、配置を調べて復元しました。



修理後は、こども教室で活用！

専修寺の建造物

高田本山 専修寺

専修寺は、津市一身田町にある真宗高田派の本山寺院です。専修寺には、国宝御影堂・如来堂をはじめとしてすばらしい建造物が多数あり、周辺の一身田寺内町とともに歴史的な景観を形成しています。



御影堂・如来堂 国宝

御影堂：寛文6年（1666）（写真右）

如来堂：延享5年（寛延元年・1748）（写真左）

専修寺の歴史的建造物



山門 重要文化財
宝永元年（1704）



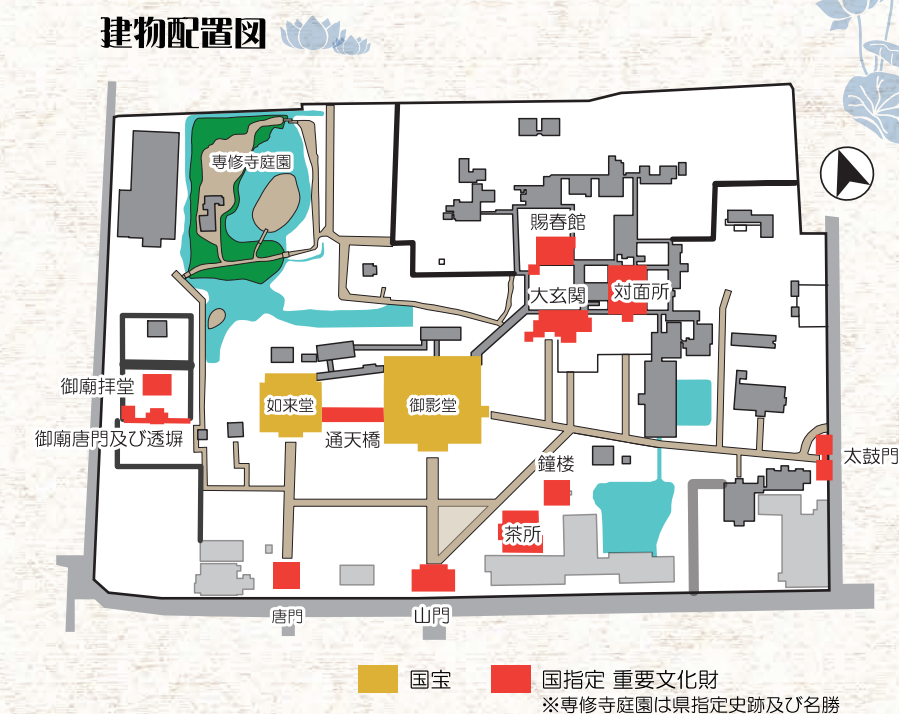
唐門 重要文化財
天保15年（1844）



御廟唐門及び透塀 重要文化財
江戸時代末期



大玄関 重要文化財
江戸時代後期



御廟拝堂 重要文化財
安政5年（1858）



太鼓門 重要文化財
文久元年（1861）



対面所 重要文化財
天明5年（1785）



茶所 重要文化財
江戸時代後期



国 宝を飾るさまざまな彫刻

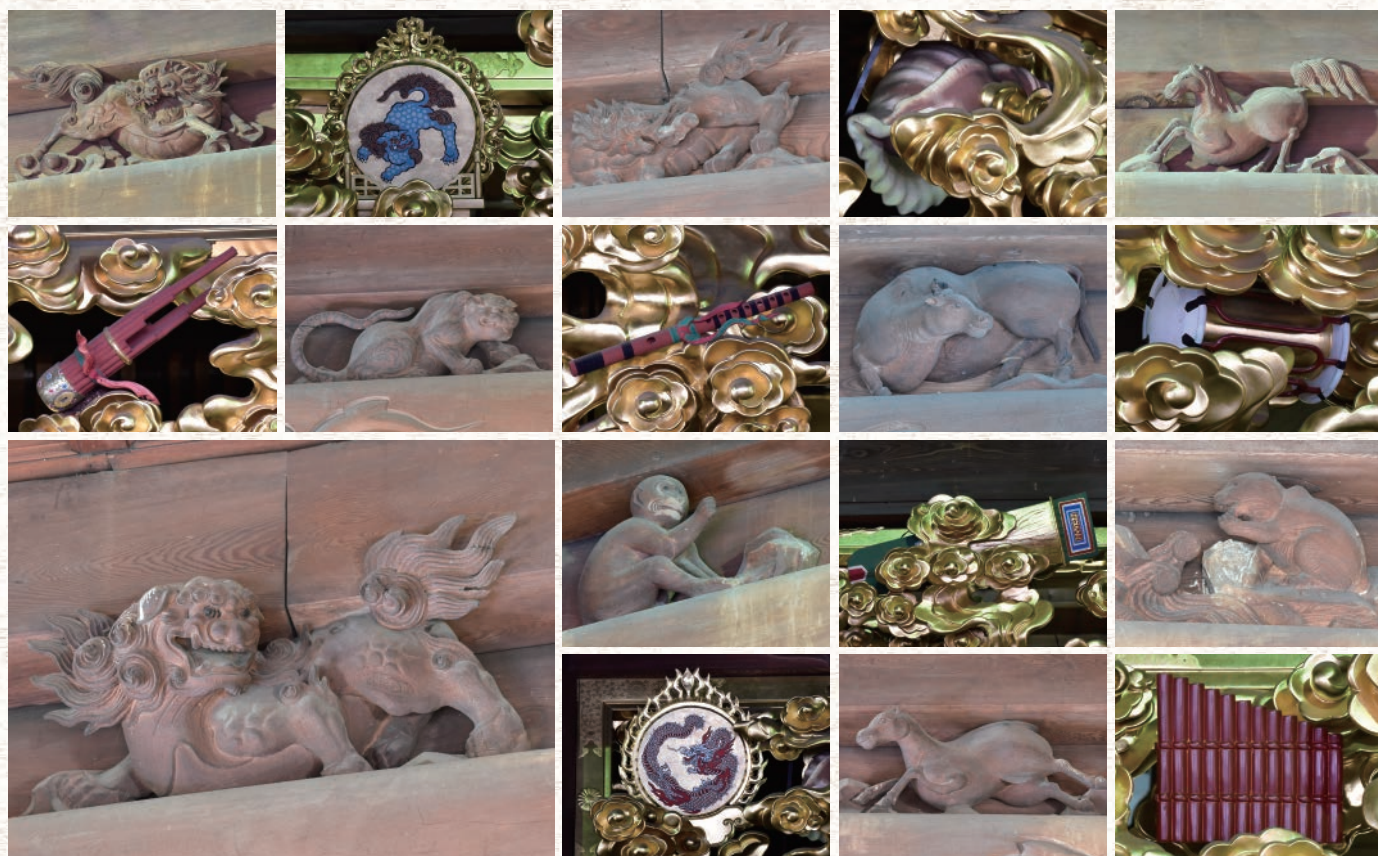
御影堂

お堂は極彩色の花や草木と、孔雀などの鳥で飾られています



如来堂

お堂には動物や楽器などが見られます



国宝
如来堂



建設：江戸時代中期

享保4年(1719) 発願
寛保3年(1743) 柱立
延享元年(1744) 上棟
同5年(寛延元年、1748) 遷仏供養

如来堂

如来堂は、本寺の本尊である阿弥陀如来立像を安置しています。入母屋造で、二階建てに見えますが、下段は「裳階」という庇のような建築手法にあたります。外観は本格的な禅宗様の形式です。如来堂は、近世に進展した大規模木造建築技術の粋が最大限に表現されており、日本の近世院建築の到達点を示す、文化史的な意義が極めて高い建物です。

堂内

多くの信者が入れるよう、柱間を広くし、柱の本数も最小限に抑えています。天井の高さも、中央(内陣)がもっとも高くなるよう工夫しています。

組物

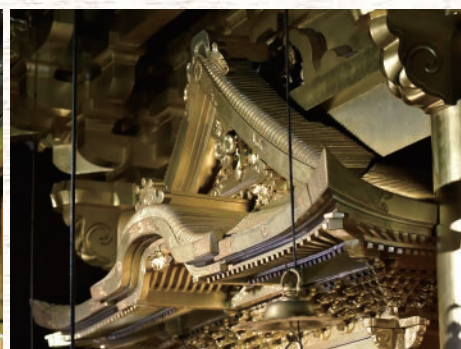
建物上部には密集した組物(詰組といいます)が配され重厚さが際立っています。尾垂木の先端には開口・閉口の猿・龍・象を交互に配しています。



宮殿

本尊を守る厨子である宮殿は、京都で制作され、如来堂が上棟する3年前の元文6年(1741)に完成していました。豪華で華麗な表現が随所に見られます。

組物の象





御影堂



建設：江戸時代前期

寛文6年（1666）

までに、おおむね完成

御影堂

御影堂は、宗祖親鸞及び歴代上人を祀る堂です。和様を基調とした入母屋造の建造物で、国内の近世寺院建築では屈指の平面規模です。当時の建築・装飾技術が駆使され、多彩で華麗な大空間とともに、各所の空間秩序が表現されています。御影堂は、近世仏堂の大型化・多様化の指標として、日本の文化史上、極めて高い意義を有した建造物です。

堂内

堂内には、全部で739枚の畳が敷かれています。2,000人が一度に参拝できる広さといえます。さらびやかで荘厳な空間を形成しています。

組物

組物は、柱の上に組まれて屋根の重さを分散させる装置ですが、装飾的な意味も持っています。御影堂の組物は、開口した龍が表現されています。



宮殿

宗祖親鸞の像を納める厨子である宮殿は、元禄15年（1702）に制作されました。金箔と極彩色を多用し、華麗に仕上げられています。



組物の龍

番号	名称	区分	所在地	建造物の特徴
1	旧諸戸家住宅（洋館） きゅうもろ と け じゅうたく よう かん	国	桑名市 大字桑名鷹場	「六華苑」の名で親しまれています。この「洋館」は六華苑の顔ともいえる明治洋風建築です。
2	観音寺 仁王門 かんの じ に おうもん	県	鈴鹿市 寺家	江戸時代、元禄 16 年（1703）に建立された楼門。正面両脇には仁王さん（金剛力士像）がいます。
3	石薬師寺 薬師堂 いし やく し じ やく し どう	県	鈴鹿市 石薬師町	江戸時代前期、寛永 6 年（1629）に建立されたお堂。ご本尊はなんと石に刻まれた仏像です！
4	地藏院（本堂） じ ぞう いん ほん どう	国	亀山市 関町新所	江戸時代前期、元禄 13 年（1700）に建立されたお堂。関宿のシンボルの存在！
5	専修寺 如来堂 せん じゅう じ にょらい どう	国	津市 一身田町	三重県初の建造物国宝の 1 棟！ 2 階建てのようですが、下部は裳階という装飾 & 建物補強の施設です。
6	慈智院 本堂 じ ち いん ほん どう	県	津市 一身田町	高田本山専修寺の東隣にあります。専修寺よりも古い、寛永 16 年（1639）頃の建物です！
7	白山比咩神社 しら やま ひ め じん じゃ （本殿・八幡社・須賀社） ほん でん はちまんしゃ す が しゃ	県	津市 白山町南出	元和 8 年（1622）の建立と考えられます。春日造と呼ばれる社殿の様式で、3 棟並ぶ景観は抜群！
8	来迎寺 本堂 らい ごう じ ほん どう	国	松阪市 白粉町	江戸時代中期の享保 16 年（1731）に建立された、外陣と内陣を別棟で造る特徴的な仏堂です。
9	三門〔龍泉寺〕 さん もん りゅうせん じ	県	松阪市 愛宕町	薬医門という形式で、桃山様式（1600 年前後）の特色があります。小形ですが重みのある構えです。
10	旧松坂御城番長屋 きゅうまつ さか ご じょうばん なが や	国	松阪市 殿町	江戸時代末期の建物で、紀州徳川藩の城番が詰めた長屋。松坂城跡から全貌を眺められます。
11	近長谷寺 本堂 きん ちょう こく じ ほん どう	県	多気郡多気町 長谷	元禄 7 年（1694）に完成。大工は、専修寺御影堂や善光寺（長野市）を手がけた森万右衛門！
12	金剛證寺 本堂 こん ごう しょう じ ほん どう	国	伊勢市 朝熊町	慶長 14 年（1609）頃に完成。檜皮葺と、ベンガラで赤く塗られた外面のコントラストが印象的！
13	高倉神社（本殿・八幡社本殿） たかくら じん じゃ ほん でん はちまんしゃ ほん でん	国	伊賀市 西高倉	この 2 棟は流造という社殿形式。天正 2 年（1574）の棟札があり、県内でも古い社殿です。
14	旧三重県第三尋常中学校校舎 きゅうみ えけん だい さん じん じょう ちゅう がっこう しょう	県	伊賀市 上野丸之内	県立上野高等学校にあり、明治 33 年（1900）に建設されました。県内では数少ない明治期洋風建築。
15	入交家住宅（主屋） いりまじり け じゅうたく しゅ おく	県	伊賀市 上野相生町	主屋は文政 2 年（1819）頃に完成。入交家は藤堂藩中級武士で、武家屋敷のたたずまいを残しています。
16	猪田神社 本殿 いの だ じん じゃ ほん でん	県	伊賀市 下郡	慶長 6 年（1601）に建立された秀麗な流造の社殿。国重文の猪田神社からは丘陵を挟んで南にあります。
17	観菩提寺 楼門 かん ぼ だい じ ろうもん	国	伊賀市 島ヶ原	国重文の本堂の前に建つ、檜皮葺の秀麗な楼門です。門内には仁王さん、多聞天・広目天がおられます。
18	町井家住宅（主屋） まち い け じゅうたく しゅ おく	国	伊賀市 枅川	18 世紀後半頃に建てられたとされる。当時の上層農家の屋敷を今に伝える貴重な建物です。
19	杉谷神社 本殿 すぎ たに じん じゃ ほん でん	県	名張市 大屋戸	入母屋造の社殿で、江戸時代中期の宝永元年（1704）に建立。随所にカラフルな彩色が残っています。
20	本竜寺 本堂 ほん りゅう じ ほん どう	県	熊野市 紀和町和気	正徳 4 年（1714）までに建立。本堂と庫裏を接合した形式で、江戸時代中期の中小規模寺院建築を今に伝えています。

